NTT e-Drone Technology（AC-101connect,AC-102）の散布方法

1キロ粒剤の散布方法の目安

2025年3月版

薬剤名	散布量	飛行速度	散布幅	インペラ回転ダイヤル	散布量率（開度）
ジェイソウル1キロ粒剤	1kg/10a	15km/h	5m	中	7%
ジャスタ1キロ粒剤	1kg/10a	15km/h	5m	中	1%
ウルティモZ1キロ粒剤	1kg/10a	15km/h	5m	中	2%
クサウェポン1キロ粒剤	1kg/10a	15km/h	5m	中	1%
バイスコープ1キロ粒剤	1kg/10a	15km/h	5m	中	3%
ルナクロス1キロ粒剤	1kg/10a	15km/h	5m	中	3%
グランクロスZ1キロ粒剤	1kg/10a	15km/h	5m	中	7%
ソニックブームZ1キロ粒剤	1kg/10a	15km/h	5m	中	7%
トドメMF1キロ粒剤	1kg/10a	15km/h	5m	中	13%

ドリフト防止の観点から、1キロ粒剤の散布ルートは畦畔から5m以上内側で設定してください。

目安表はあくまで地上での吐出試験結果に基づいた目安です。実際の飛行散布では
加速時の速度変化や気象・環境要因、機械の個体差によって吐出量は変動します。

NTT e-Drone Technology（AC-101connect,AC-102）の散布方法

FG剤の散布方法の目安（最大効率時）

2025年3月版

薬剤名	散布量	飛行速度	散布間隔（最大効率時）	インペラ回転ダイヤル	散布量率（開度）
ジャスタ400FG	400g/10a	15km/h	20m	遅	100%
ウルティモZ350FG	350g/10a	15km/h	20m	遅	100%
クサウェポン400FG	400g/10a	15km/h	20m	遅	100%
グッドラック150FG	150g/10a	15km/h	30m	遅	60～70%

・ドリフト防止の観点から、FG剤の散布ルートは畦畔から**10m以上**内側で設定してください。
・散布時の水深は浅いところでも5cm以上確保して下さい。
・拡散性の高い製剤ですので、散布間隔は30m以内であれば問題ありませんが、薬剤によっては最大開度でも目標吐出量に満たない場合があります。
・上記はあくまで目安です。散布時の諸条件によって吐出量は変動します。1圃場ごとに必要散布量を積載し、予定ルートで散布後、残量をすべて圃場に撒ききる散布方法をおすすめします。
・上記以外の散布間隔での散布も可能です。次頁以降を参考に調整してください。

参考：FG剤の吐出量目安

条件：飛行速度：15km/h、インペラ回転ダイヤル：遅

2025年3月版

ジャスタ400FG
（400g/10a）

散布量率	吐出量（g/秒）
100%	38
90%	34
80%	30

ウルティモZ350FG
（350g/10a）

散布量率	吐出量（g/秒）
100%	34
90%	32
80%	29
70%	22

クサウェポン400FG
（400g/10a）

散布量率	吐出量（g/秒）
100%	38
90%	34
80%	30

グッドラック150FG
（150g/10a）

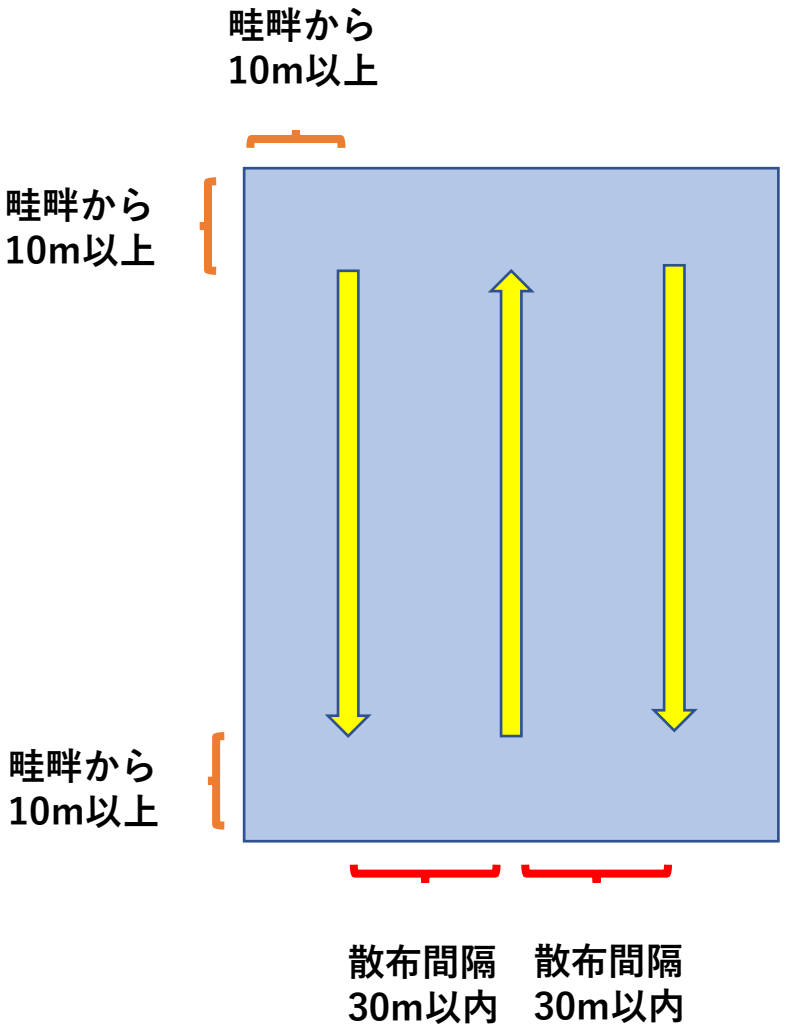
散布量率	吐出量（g/秒）
70%	23
60%	20
50%	16
40%	14
30%	11

上記はあくまで地上での吐出試験結果に基づいた目安です。実際の飛行散布では
加速時の速度変化や気象・環境要因、機械の個体差によって吐出量は変動します。

参考：FG剤の散布ルートの設定と吐出量の計算方法

散布ルートによって吐出量の調整が必要です。

散布ルートの設定に関する注意事項（右図参照）
・拡散性の高い製剤ですので、散布間隔は30m以内であれば問題ありません（ただし、薬剤によっては最大開度でも目標吐出量に満たない場合があります）
・ドリフト防止の観点から、FG剤の散布ルートは畦畔から**10m以上**内側で設定してください。



散布ルート（散布間隔、散布距離）と飛行速度が決まったら、
下記を参考に【1秒あたりの吐出量】の目安を計算してください。

1秒あたりの吐出量(g/秒) ＝

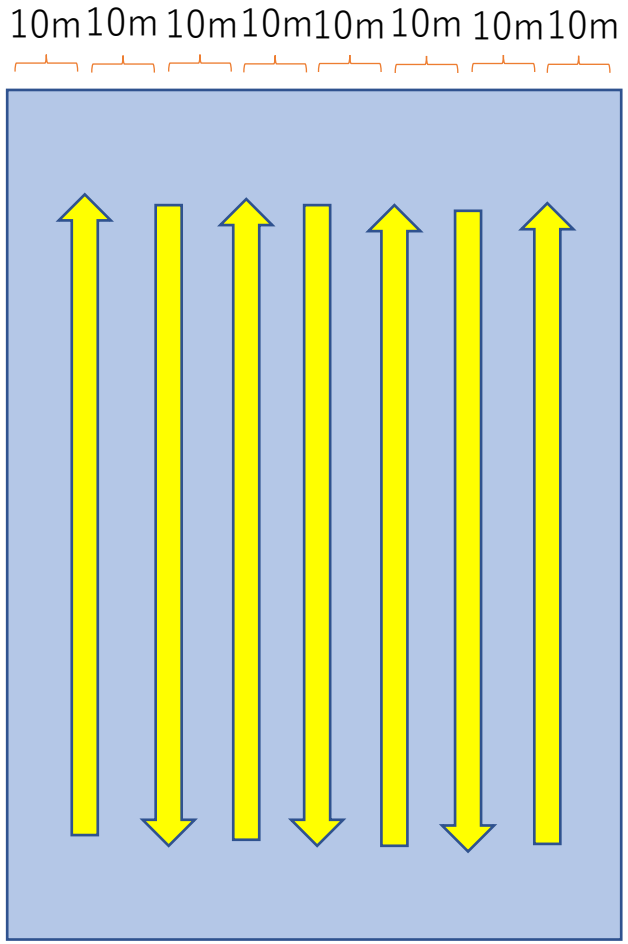
散布量(g) ÷ 散布距離(m) × 飛行速度(m/秒)

（飛行速度：15km/時＝4.17m/秒）

上記結果と前頁の吐出量の目安表から、散布量率（開度）を設定してください。

参考：FG剤の散布量率目安の計算方法（例）

散布間隔10mの場合
（80a圃場想定）



80m×7本

クサウェポン400FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×7本（散布間隔10m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝3,200g ÷ 560m　×　4.17m/秒　＝　23.8g/秒

⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は60～70%

ウルティモZ350FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×7本（散布間隔10m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝2,800g ÷ 560m　×　4.17m/秒　＝　20.9g/秒

⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は60～70%

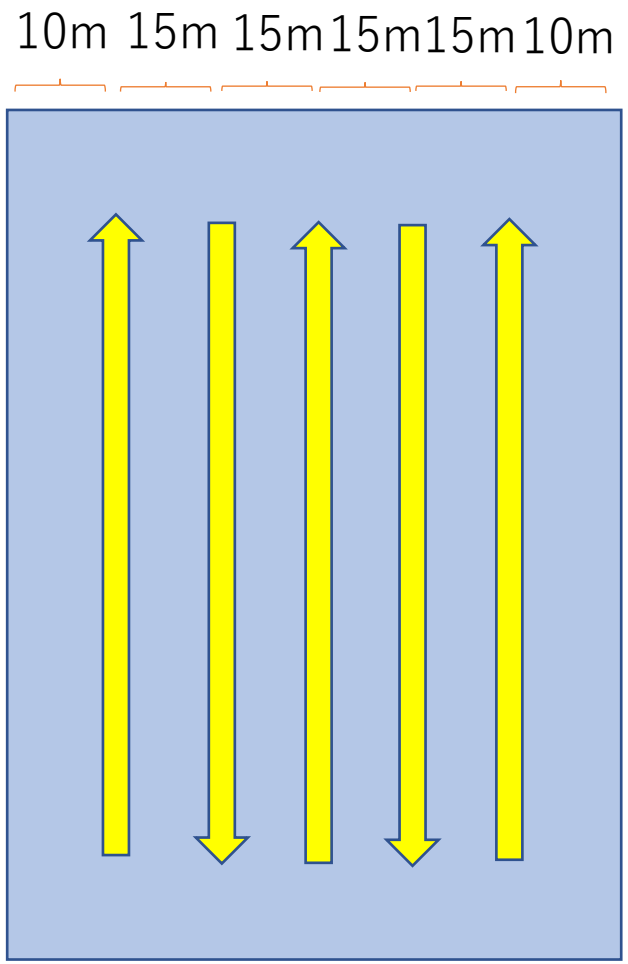
グッドラック150FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×7本（散布間隔10m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝1,200g ÷ 560m　×　4.17m/秒　＝　8.9g/秒

⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は20～30%

上記はあくまで目安です。散布時の諸条件によって吐出量は変動します。1圃場分ごとに必要散布量を積載し、予定ルートで散布後、残量をすべて圃場に撒ききる散布方法をおすすめします。

参考：FG剤の散布量率目安の計算方法（例）

散布間隔15mの場合
（80a圃場想定）



80m×5本

クサウェポン400FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×5本（散布間隔15m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝3,200g ÷ 400m　×　4.17m/秒　＝　33.4g/秒

⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は90%程度

ウルティモZ350FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×5本（散布間隔15m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝2,800g ÷ 400m　×　4.17m/秒　＝　29.2g/秒

⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は80%程度

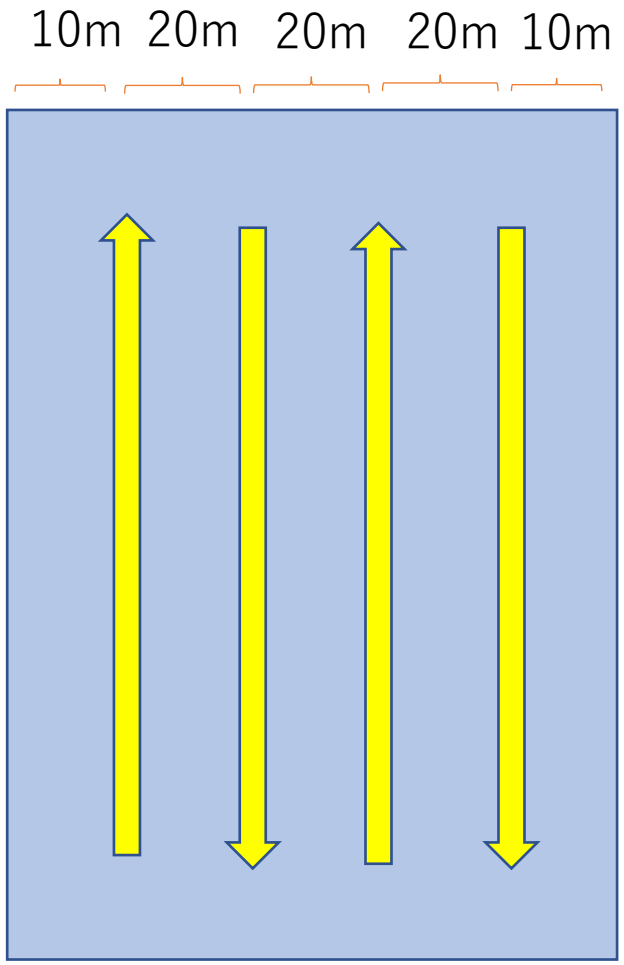
グッドラック150FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×5本（散布間隔15m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝1,200g ÷ 400m　×　4.17m/秒　＝　12.5g/秒

⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は30～40%

上記はあくまで目安です。散布時の諸条件によって吐出量は変動します。1圃場分ごとに必要散布量を積載し、予定ルートで散布後、残量をすべて圃場に撒ききる散布方法をおすすめします。

参考：FG剤の散布量率目安の計算方法（例）

散布間隔20mの場合
（80a圃場想定）



80m×4本

クサウェポン400FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×4本（散布間隔20m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝3,200g ÷ 320m　×　4.17m/秒　＝　41.7g/秒
⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は100%※
※最大開度でも吐出量がやや足りないので、残量を撒き切ってください。

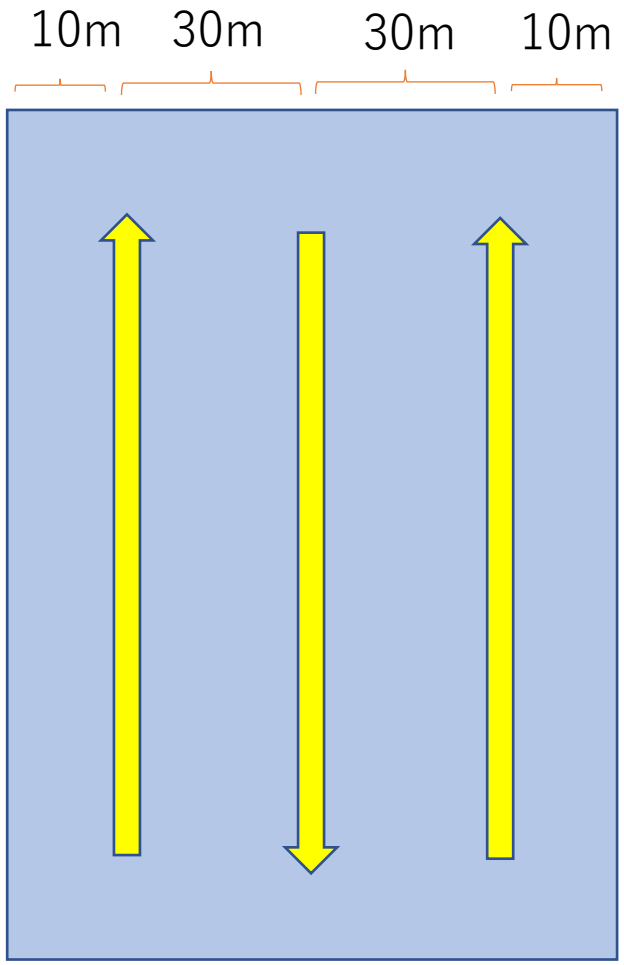
ウルティモZ350FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×4本（散布間隔20m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝2,800g ÷ 320m　×　4.17m/秒　＝　36.5g/秒
⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は100%※
※最大開度でも吐出量がやや足りないので、残量を撒き切ってください。

グッドラック150FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×4本（散布間隔20m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝1,200g ÷ 320m　×　4.17m/秒　＝　15.6g/秒
⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は50%程度

上記はあくまで目安です。散布時の諸条件によって吐出量は変動します。1圃場分ごとに必要散布量を積載し、予定ルートで散布後、残量をすべて圃場に撒ききる散布方法をおすすめします。

参考：FG剤の散布量率目安の計算方法（例）

散布間隔30mの場合
（80a圃場想定）



80m×3本

クサウェポン400FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×3本（散布間隔30m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝3,200g ÷ 240m　×　4.17m/秒　＝　55.6g/秒
⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は設定不可
最大開度でも吐出量が足りないので、飛行ルートの調整が必要です。

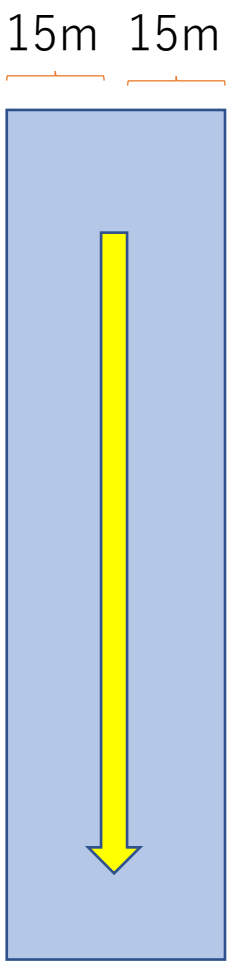
ウルティモZ350FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×3本（散布間隔30m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝2,800g ÷ 240m　×　4.17m/秒　＝　48.7g/秒
⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は設定不可
最大開度でも吐出量が足りないので、飛行ルートの調整が必要です。

グッドラック150FGを80a圃場（100m×80m）を飛行速度15km/hで
80m×3本（散布間隔30m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝1,200g ÷ 240m　×　4.17m/秒　＝　20.9g/秒
⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は60～70%

上記はあくまで目安です。散布時の諸条件によって吐出量は変動します。1圃場分ごとに必要散布量を積載し、予定ルートで散布後、残量をすべて圃場に撒ききる散布方法をおすすめします。

参考：FG剤の散布量率目安の計算方法（例）

散布間隔30mの場合
（30a圃場想定）



80m×1本

クサウェポン400FGを30a圃場（100m×30m）を飛行速度15km/hで
80m×1本（散布間隔30m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝1,200g ÷ 80m　×　4.17m/秒　＝　62.6g/秒
⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は設定不可
最大開度でも吐出量が足りないので、飛行ルートの調整が必要です。

ウルティモZ350FGを30a圃場（100m×30m）を飛行速度15km/hで
80m×1本（散布間隔30m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝1,050g ÷ 80m　×　4.17m/秒　＝　54.7g/秒
⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は設定不可
最大開度でも吐出量が足りないので、飛行ルートの調整が必要です。

グッドラック150FGを80a圃場（100m×30m）を飛行速度15km/hで
80m×1本（散布間隔30m）のルートで散布する場合
1秒あたりの吐出量　＝450g ÷ 80m　×　4.17m/秒　＝　23.5g/秒
⇒目安表より、AC102の散布量率の目安は70%程度

上記はあくまで目安です。散布時の諸条件によって吐出量は変動します。1圃場分ごとに必要散布量を積載し、予定ルートで散布後、残量をすべて圃場に撒ききる散布方法をおすすめします。